

第3章 計画の中間評価・中間見直し

I 中間評価の方法

(1)評価基準

各分野に設定した目標値64指標のうち今回評価できる52指標について、直近の実績値を計画策定時のベースライン値と比較して傾向を評価しました。

評価	基 準 ※令和3年度第1回歯と口腔の健康づくり推進会議(R3.7.27)にて決定
達成	すでに最終目標値を達成している(最終目標値が数値の指標のみ)
改善	改善傾向にある(ベースライン値と比べ+3%以上)
維持	変わらない(ベースライン値と比べ±3%未満)
悪化	計画策定時の目標値と比べ悪化した(ベースライン値と比べ-3%以下)

(2)基礎資料

評価にあたり、使用した主な基礎資料は下記のとおりです。

調査名	調査期間	対象者など ※()は受診率または回答率	関連 指標数
1歳6か月児健康診査	R4年度	4,109/4,199人(97.9%)	2
3歳児健康診査	R4年度	4,341/4,449人(97.6%)	3
静岡県5歳児歯科調査	R4年度	静岡市内の5歳児が在籍する 179施設 4,707人	1
静岡県・静岡県歯科医師会 学校歯科保健調査結果	R4年度	静岡市内の小学校 82校、 中学校 50校、高等学校 17校	10
歯周病検診結果	R4年度	40歳以上 1,807人	11
障害者歯科保健センター アンケート	R4年度	市内の特別支援学校小学部212人、 中学部112人、高等部302人、障害 福祉サービス事業所1024人	4
健康・食育に関する意識 アンケート調査	R4.7.4～ R4.7.27	静岡市在住の1～84歳 3,175/7,300人(43.5%)	13
高齢者福祉施設歯科保健 医療体制等アンケート	R5.9.1～ R5.9.15	静岡市内の介護老人福祉施設、 介護老人保健施設、介護療養型医療 施設・介護医療院 65施設	2
その他 健康づくり推進課調べ 3、妊婦歯科健康診査結果 1、特定健康診査結果 2			6

なお、評価外12指標は、令和7年度に実施予定の「歯と口に関するアンケート調査」で評価します。

2 中間評価の結果

(1)全体の評価

指標については、すでに最終目標値に達している「達成」とベースライン値と比べ+3%以上である「改善」を合わせた改善割合が52項目中38項目で73.0%となっています。

	達成	改善	維持	悪化	計	評価外
項目数	10	28	7	7	52	12
割合	19.2%	53.8%	13.5%	13.5%	100.0%	—
※以下、四捨五入により合計値が合わないことがあります						
改善割合(達成+改善／項目数)						73.0%

(2)分野別の評価

分野別にみると、基本方針1の「乳幼児期」で28.6%、基本方針3の「災害時における歯科保健医療提供体制の整備」基本方針4の「関係機関との連携強化」が0.0%という状況です。

基本方針	分野	改善割合
1	乳幼児期(0~5歳)	28.6%
	学童期(6~12歳)	75.0%
	思春期(13~19歳)	66.7%
	成人期(20~64歳)	87.5%
	高齢期(65歳以上)	90.9%
	その他	—
2	障がい児・者	75.0%
	要介護者	100.0%
	妊産婦	100.0%
	入院患者	—
	被虐待児	—
3	災害時における健康被害の予防	評価外
	災害時における歯科保健医療提供体制の整備	0.0%
4	市民が学校や事業所等のあらゆる場面において歯と口の健康づくりを推進できる環境整備	—
	関係機関との連携強化	0.0%
5	科学的根拠に基づいた歯科保健施策の展開	—

(3)評価の一覧(下線=達成、囲み=悪化)

指標名	調査対象	調査名(調査頻度)	ベースライン値(年度)	中間実績値(年度)	評価	最終目標値(R7)
むし歯のない子どもの割合	1歳6か月児	1歳6か月児歯科健診査結果(毎年)	99.3% (R1)	99.3% (R4)	維持	100%
	3歳児	3歳児歯科健康診査結果(毎年)	91.5% (R1)	93.9% (R4)	維持	98.2%
	5歳児(乳歯)	静岡県5歳児歯科調査(毎年)	70.6% (R1)	77.9% (R4)	達成	77.7%
	中学1年生	学校歯科保健調査(毎年)	83.0% (R1)	87.4% (R4)	達成	85.0%
保護者が毎日仕上げみがきをしている子どもの割合	1歳6か月児	1歳6か月児健康診査(毎年)	97.6% (R1)	93.9% (R4)	悪化	100%
フッ化物を利用している子どもの割合	3歳児	3歳児健康診査(毎年)	89.4% (R1)	88.7% (R4)	維持	増加
甘い菓子等を1日2回以上食べている子どもの割合	3歳児		30.8% (R1)	30.6% (R4)	維持	減少
フッ化物洗口実施割合	こども園 保育園 幼稚園	健康づくり推進課調査(毎年)	73.1% (R2)	75.3% (R4)	改善	80.0%
フッ化物洗口実施校数	小学校		4/88校 4.5% (R2)	5/82校 6.0% (R4)	改善	増加
むし歯処置未完了者の割合	小学4年生	学校歯科保健調査(毎年)	45.1% (R1)	31.7% (R4)	改善	減少
	中学1年生		41.7% (R1)	48.4% (R4)	悪化	減少
	高校1年生		42.7% (R1)	34.8% (R4)	改善	減少

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値(年度)	中間実績値 (年度)	評価	最終目標値(R7)
歯肉に所見のある者の割合	小学4年生	学校歯科保健調査 (毎年)	8.3% (R1)	7.6% (R4)	改善	減少
	中学1年生		19.6% (R1)	18.2% (R4)	改善	減少
	高校1年生		27.0% (R1)	18.3% (R4)	改善	減少
歯科専門職による歯の健康教育を行っている校数	小学校		19/88校 21.6% (R1)	14.6% (R4)	悪化	全校
歯科専門職による歯の健康教育を行っている校数	中学校		4/51校 7.8% (R1)	6.0% (R4)	悪化	増加
	高等学校		4/19校 21.1% (R1)	11.8% (R4)	悪化	増加
フッ化物を利用している者の割合	中学生 高校生	歯と口に関するアンケート調査 (歯科保健調査年)	69.4% (R1)	—	—	増加
デンタルフロスなど歯と歯の間を清掃するための器具を使っている者の割合	中学生	健康に関する意識・生活アンケート調査 (爛漫計画調査年)	41.6% (H28)	51.5% (R4)	改善	増加
	40歳以上	歯周病検診結果 (毎年)	60.8% (R1)	72.1% (R4)	達成	65.8%
歯周疾患に関する症状がある人の割合	20~29歳	健康に関する意識・生活アンケート調査 (爛漫計画調査年)	72.6% (H28)	30.9% (R4)	達成	66.6%
	30~44歳		77.9% (H28)	48.3% (R4)	達成	67.2%
	45~64歳		80.0% (H28)	52.7% (R4)	達成	76.6%
タバコを吸うことやタバコの煙を吸うことが歯周病に影響があると思う者の割合	20~64歳		29.6% (H28)	79.7% (R4)	改善	増加

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値(年度)	中間実績値 (年度)	評価	最終目標値(R7)
歯ピカ検診受診者数	40歳	歯周病検診結果 (毎年)	405人 (R1)	399人 (R4)	維持	増加
歯周病検診受診者数	40歳以上		1,450人 (R1)	1,807人 (R4)	改善	増加
歯肉に異常のない者の割合	40~49歳		13.7% (R1)	18.1% (R4)	改善	増加
	50~59歳		3.5% (R1)	12.5% (R4)	改善	増加
	60~69歳		2.5% (R1)	15.8% (R4)	改善	増加
	70~79歳		1.6% (R1)	3.6% (R4)	改善	増加
	80歳以上		1.6% (R1)	2.0% (R4)	改善	増加
むし歯処置未完了者の割合	40歳以上		39.2% (R1)	36.5% (R4)	改善	減少
フッ化物を利用している者の割合	40歳以上	歯と口に関するアンケート調査 (歯科保健調査年)	37.8% (R1)	—	—	増加
「8020運動」の認知度	40歳以上		51.4% (R1)	—	—	増加
オーラルフレイルを知っている者の割合	40歳以上		11.5% (R1)	—	—	25.0%
歯っぴー☆スマイル体操を知っている者の割合	40歳以上		37.9% (R1)	—	—	増加
かかりつけ歯科医を持っている者の割合	40~64歳		76.0% (R1)	—	—	90.7%
何でも噛んで食べることができる者の割合	男性 50~54歳	特定健康診査質問票(毎年)	84.2% (R1)	81.1% (R4)	悪化	85.3%
	女性 70~74歳		81.1% (R1)	80.1% (R4)	維持	83.3%

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値(年度)	中間実績値 (年度)	評価	最終目標値(R7)
歯科健診受診率	思春期	健康に関する意識・生活アンケート調査 (爛漫計画調査年)	57.4% (H28)	69.0% (R4)	達成	66.5%
	20~29歳		28.2% (H28)	37.1% (R4)	改善	41.8%
	30~44歳		40.2% (H28)	51.2% (R4)	改善	52.2%
	45~64歳		40.7% (H28)	48.5% (R4)	改善	52.4%
歯科健診受診率	65~74歳	歯周病検診結果 (毎年)	47.5% (H28)	55.8% (R4)	改善	56.5%
	75歳以上		51.8% (H28)	59.2% (R4)	改善	65.8%
口腔機能に関する症状がない者の割合	65歳以上		52.0% (H28)	80.1% (R4)	達成	52.8%
6024達成者の割合	55~64歳		81.9% (R1)	93.8% (R4)	達成	82.6%
8020達成者の割合	75~84歳		62.7% (R1)	75.4% (R4)	改善	増加
特別支援学校でかかりつけ歯科医を持つ者の割合	特別支援学校 小学部	障害者歯科保健センターアンケート (毎年)	77.5% (R1)	81.6% (R4)	改善	増加
	特別支援学校 中学部		68.5% (R1)	82.1% (R4)	改善	増加
	特別支援学校 高等部		52.0% (R1)	60.9% (R4)	改善	増加
障害福祉サービス事業所等でかかりつけ歯科医を持つ者の割合	障害福祉サービス事業所利用者		66.3% (R1)	63.2% (R4)	悪化	増加

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値(年度)	中間実績値(年度)	評価	最終目標値(R7)
定期的に歯科健診を行っている介護保険施設の割合	介護保険施設(特養・老健・介護療養型医療施設・介護医療院)	介護保険施設(特養・老健・介護療養型医療施設・介護医療院)	28.0% (H30)	46.2% (R5)	改善	50.0%
定期的に歯科専門職による歯科保健指導を行っている介護保険施設の割合			24.0% (H30)	47.7% (R5)	改善	50.0%
妊婦歯科健診受診率	妊婦	妊婦歯科健診診査 (毎年)	46.2% (R1)	51.2% (R4)	達成	50.0%
歯科健診受診率	妊娠期	健康に関する意識・生活アンケート調査 (爛漫計画調査年)	64.7% (H28)	75.8% (R4)	改善	増加
非常時の「非常持ち出し袋」の中に歯ブラシや液体歯みがきが入っている者の割合	全世代	歯と口に関するアンケート調査 (歯科保健調査年)	22.3% (R1)	—	—	増加
災害時に十分な口腔ケアができるないと誤嚥性肺炎になる可能性があることを知っている者の割合	全世代		42.8% (R1)	—	—	増加
災害時歯科衛生士事前登録者数	市内在住または在勤の歯科衛生士	健康づくり推進課 (毎年)	196人 (R2)	196人 (R5)	維持	増加
歯科健診を実施している事業所の割合	49人以下の事業所	歯と口に関するアンケート調査 (歯科保健調査年)	1.4% (R1)	—	—	増加
	50人以上の事業所		3.0% (R1)	—	—	増加
従業員の歯の病気について把握している事業所の割合	49人以下の事業所	歯と口に関するアンケート調査 (歯科保健調査年)	6.3% (R1)	—	—	増加
	50人以上の事業所		4.0% (R1)	—	—	増加

(4)評価のポイント

①保護者が毎日仕上げみがきをする1歳6か月児の割合は悪化、3歳児・5歳児・12歳児のむし歯は改善
むし歯のない1歳6か月児の割合は90%台を維持していますが、保護者が毎日仕上げみがきをする割合は年々悪化しています(図6)。長年、集団で実施してきた9か月児歯の教室が新型コロナウイルス感染症の影響で、一時中断や仕上げみがきの実践を取りやめたことが原因として考えられます。

むし歯のない3歳児、5歳児(乳歯)、12歳児の割合は改善しています。(図7)

図6 1歳6か月児のむし歯と仕上げみがきの状況

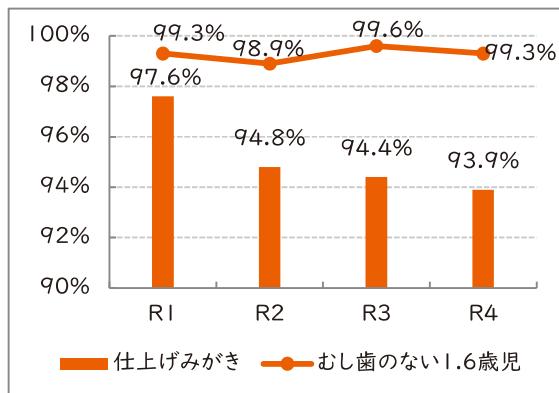
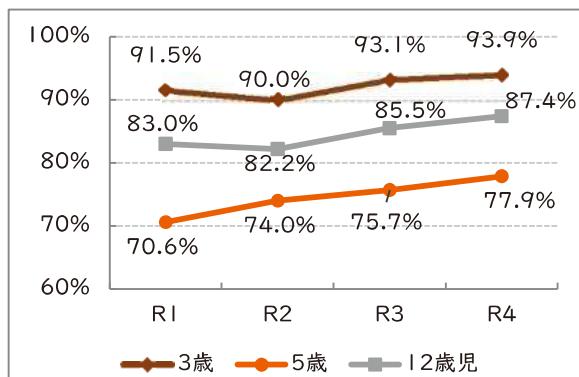


図7 むし歯のない3、5、12歳児の割合

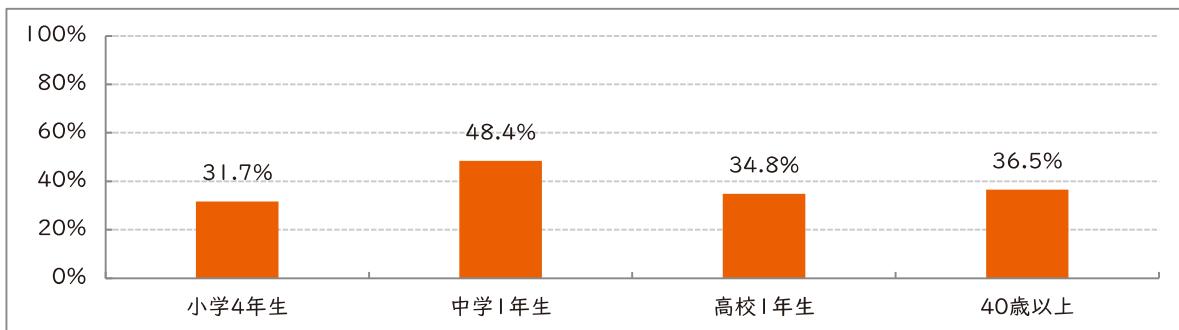


【出典】1歳6か月児・3歳児歯科健康診査結果(健康づくり推進課)
静岡県5歳児歯科調査結果(静岡県健康増進課)
学校歯科保健調査結果(静岡県・一般社団法人静岡県歯科医師会)

②むし歯を治療せず放置している者が学童期・思春期・成人期を問わず一定数存在

「治療をしていないむし歯」がある者の割合は、中学1年生が1番多く48.4%、その他の年代でも3割見られました。むし歯は、早期に治療をしないと状態が悪化し、最悪のケースでは抜歯せざるを得ない状況となります。むし歯を放置せず治療をするよう周知啓発が必要です。

図8 むし歯処置未完了者の割合

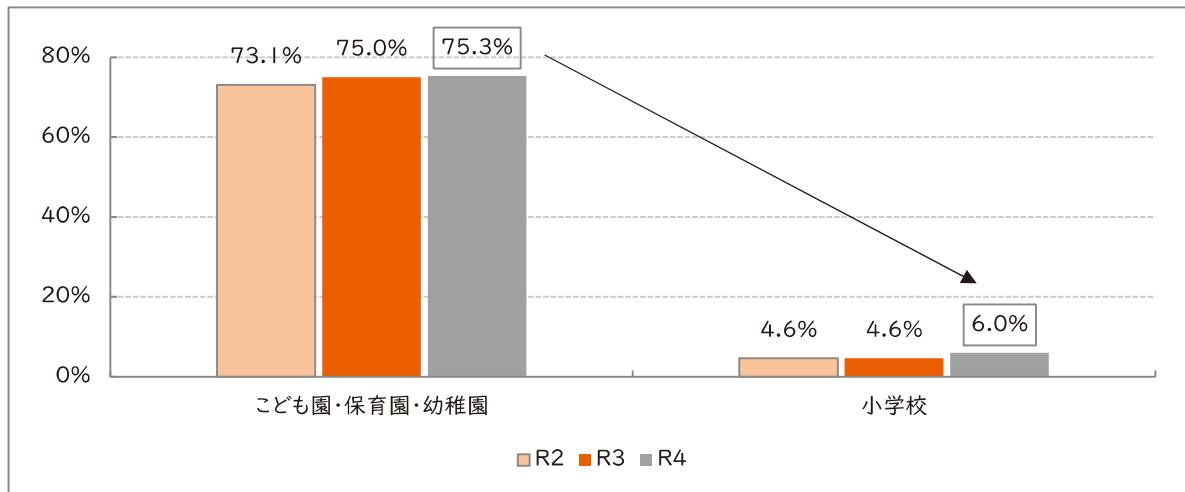


【出典】学校歯科保健調査結果(静岡県・一般社団法人静岡県歯科医師会)
歯周病検診結果(健康づくり推進課)

③フッ化物洗口実施園(校)は増えているが、小学校の実施率の改善が課題

こども園・保育園・幼稚園と小学校でのフッ化物洗口実施率は令和2年度と比較すると改善はしていますが、こども園等の実施率が75.3%に対し、小学校の実施率は6.0%と低い状況です。フッ化物洗口を幼児期の2年間で終わらせず小学校以降も継続的に受けられるよう実施校の拡大に向けた取組が必要です。

図9 フッ化物洗口を実施しているこども園・保育園・幼稚園と実施している小学校の割合

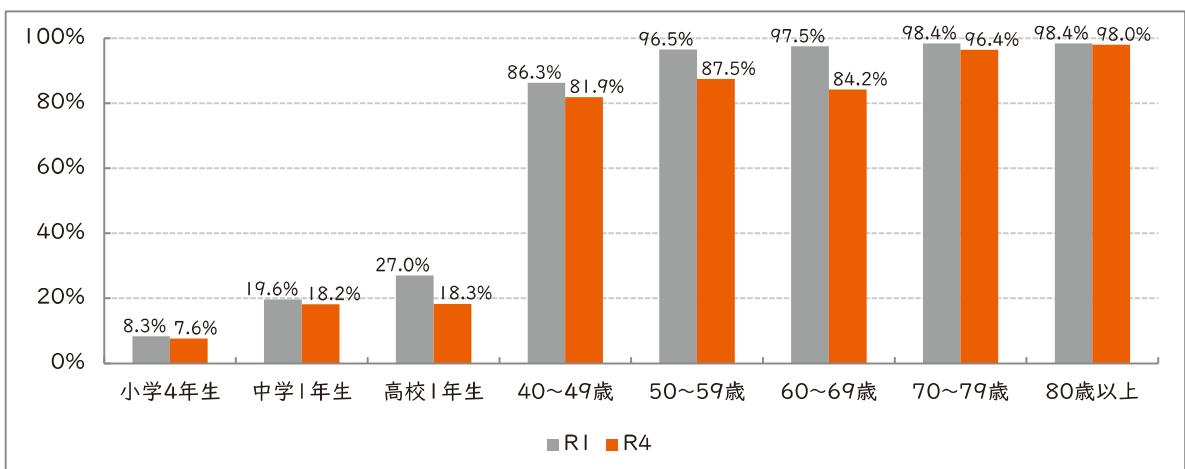


【出典】健康づくり推進課調査

④学童期・思春期の歯肉炎、成人期の歯周病ともに改善傾向

歯ぐきに炎症のある者の割合は年齢とともに増加しますが、令和元年度と比較するとどの年代も改善傾向にあります。(40歳以上の指標では、「歯肉に異常のない者」と設定していますが、このグラフでは、「異常のある者」の割合を示しています。)

図10 歯肉に所見のある者の割合

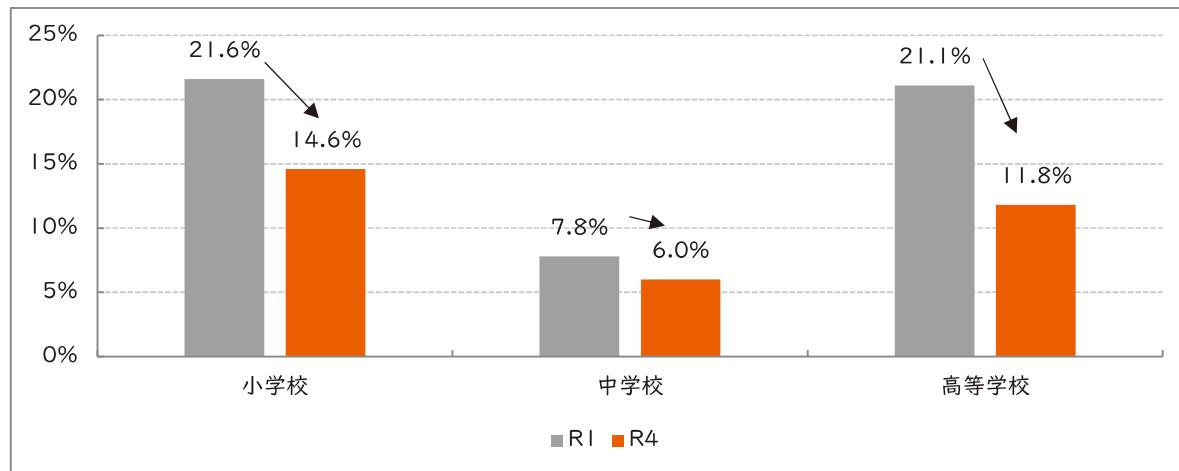


【出典】学校歯科保健調査結果(静岡県・一般社団法人静岡県歯科医師会)
歯周病検診結果(健康づくり推進課)

⑤歯科医師・歯科衛生士による歯の健康教育を行っている学校は著しく減少

歯科専門職による歯の健康教育を行っている小学校・中学校・高等学校はいずれも令和元年度と比較し減少(悪化)しています。新型コロナウイルス感染症の影響で外部講師を招くことが困難であったことが原因として考えられます。

図11 歯科専門職による歯の健康教育を行っている小学校・中学校・高等学校の割合

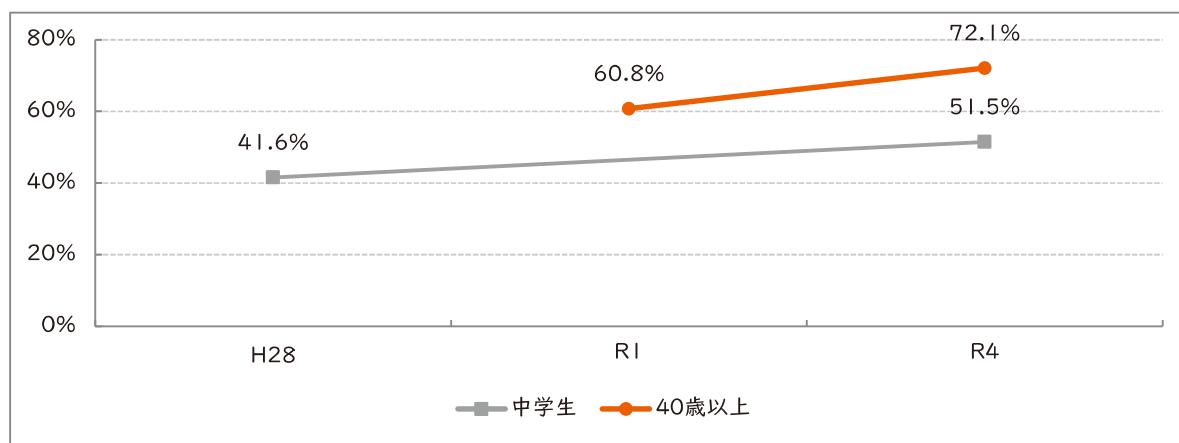


【出典】学校歯科保健調査結果(静岡県・一般社団法人静岡県歯科医師会)

⑥デンタルフロスの使用は中学生、40歳以上ともに改善

歯間ブラシや糸など歯と歯の間を清掃するための器具(歯間清掃器具)を使っている者の割合は、中学生、40歳以上のいずれも改善しています。歯ブラシのみを使用した歯みがきでは、約6割の汚れしか落とせないため、引き続き歯間清掃器具の使用について周知啓発が必要です。

図12 デンタルフロスを使用している者の割合



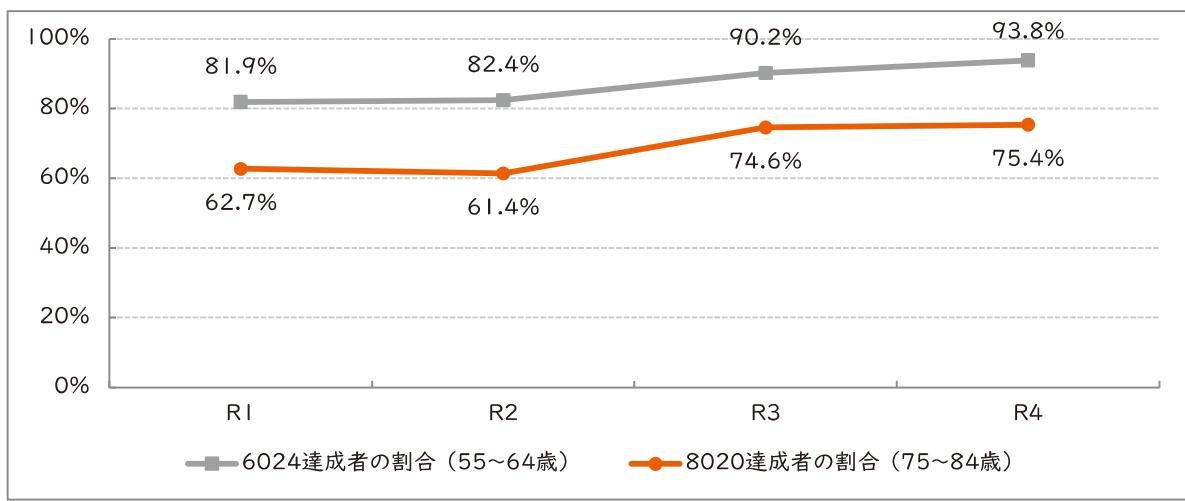
【出典】健康に関する意識・生活アンケート調査、歯周病検診結果(健康づくり推進課)

⑦歯が残っている者は増えている。噛んで飲み込む口腔機能は男性で悪化傾向

60歳で24本以上の歯が残っている者、80歳で20本以上の歯が残っている者はいずれも増加していますが(図13)、何でも噛んで食べることができる者の割合は悪化しています。(図14)

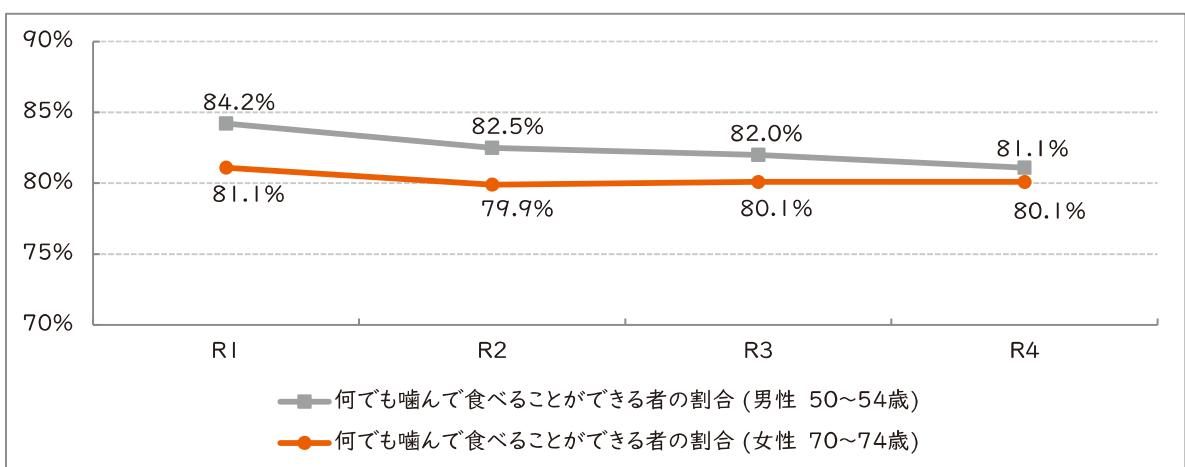
歯を残すだけでなく、安全に美味しく楽しく食事ができるよう口の機能を維持するための周知啓発が必要です。

図13 6024達成者、8020達成者の割合



【出典】歯周病検診結果(健康づくり推進課)

図14 何でも噛んで食べることができる者の割合



【出典】特定健康診査結果(健康づくり推進課)

⑧歯科健診受診率はどの年代も改善、かかりつけ歯科医を持つ障がい者の割合は一部悪化

1年に1回以上歯科健診を受診している者の割合は、平成28年度と比較するとどの年代でも改善しています(図15)。また、特別支援学校の児童・生徒でかかりつけ歯科医を持っている者の割合は改善していますが、障害福祉サービス事業所利用者では悪化しています(図16)。定期的に歯科健診を受けることの重要性についての周知啓発が必要です。

図15 歯科健診受診率

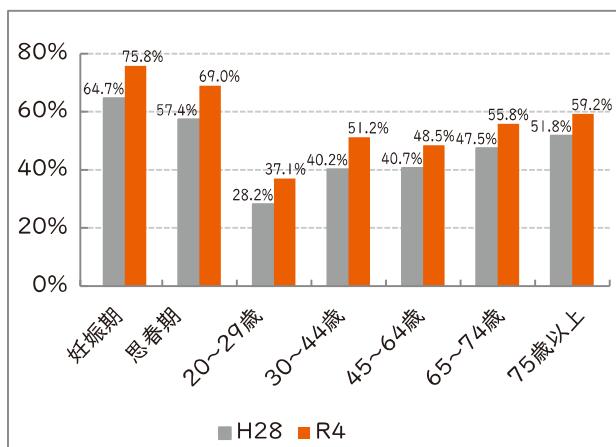
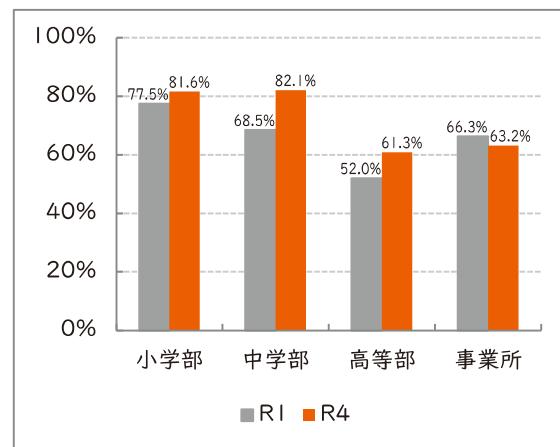


図16 特別支援学校・障害福祉サービス事業所でかかりつけ歯科医のある者

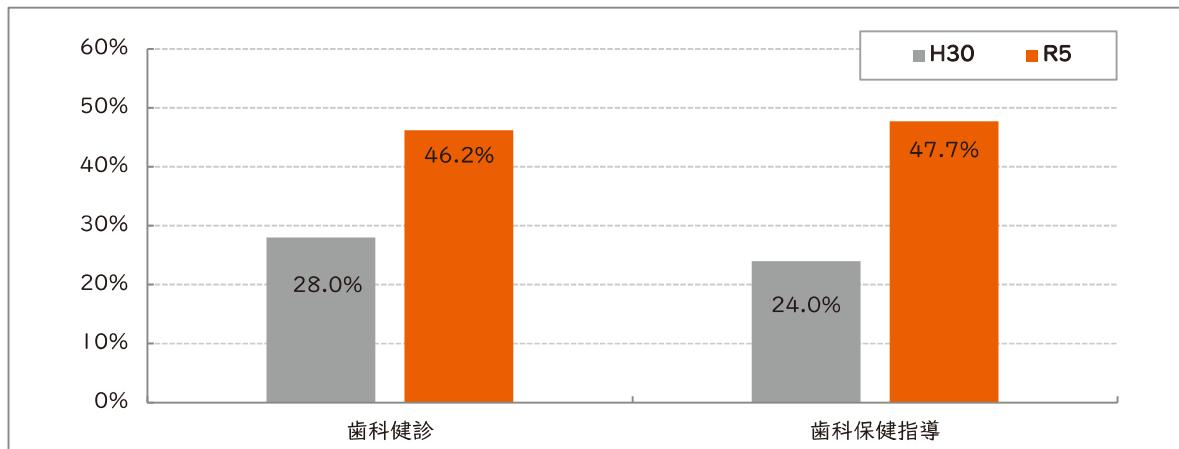


【出典】健康に関する意識・生活アンケート調査、障害者歯科保健センターアンケート
(健康づくり推進課)

⑨年に1回以上歯科健診や歯科保健指導を行っている介護保険施設の割合は改善

年に1回以上歯科健診や歯科保健指導を行っている介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院は増加(改善)しています。

図17 年に1回以上定期的に歯科健診や歯科保健指導を行っている介護保険施設の割合



【出典】介護保険施設アンケート(健康づくり推進課)

3 見直しの概要

(Ⅰ) 指標の再設定

①中間評価の結果、達成した10指標のうち最終目標値を設定し直すもの(5指標)

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン 値(年度)	中間 実績値	【旧】 最終目標 値(R7)	【新】 最終目標 値(R7)
むし歯のない子どもの割合	5歳児 (乳歯)	静岡県5歳児歯科調査 (毎年)	70.6% (R1)	77.9% (R4)	77.7%	84.3%
むし歯のない子どもの割合	中学1年生	学校歯科保健調査 (毎年)	83.0% (R1)	87.4% (R4)	85.0%	88.9%
デンタルフロスなど歯と歯の間を清掃するための器具を使っている者の割合	40歳以上	歯周病検診 結果 (毎年)	60.8% (R1)	72.1% (R4)	65.8%	81.0%
6024達成者の割合	55~64歳		81.9% (R1)	93.8% (R4)	82.6%	95.0%
妊婦歯科健診受診率	妊婦	妊婦歯科健診 検査 (毎年)	46.2% (R1)	51.2% (R4)	50.0%	53.2%

なお、達成した残りの5指標については、次期アンケート調査を令和10年頃に予定しており、令和8年度の最終実績値が出せないため、最終目標値の変更は行いません。

②中間評価の結果、悪化した7指標のうち最終目標値を数値で設定するもの(4指標)

計画策定時には最終目標値を「増加」や「減少」と設定していた指標について、より強化して取り組むため、最終目標値を数値に設定し直します。

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン 値(年度)	中間 実績値	【旧】 最終目標 値(R7)	【新】 最終目標 値(R7)
むし歯処置未完了者の割合	中学1年生	学校歯科保健調査 (毎年)	41.7% (R1)	48.4% (R4)	減少	40.6%
歯科専門職による歯の健康教育を行っている校数	中学校		4/51校 7.8% (R1)	3/50校 6.0% (R4)	増加	10校 20.0%
	高等学校		4/19校 21.1% (R1)	2/17校 11.8% (R4)	増加	5校 29.4%
障害福祉サービス等事業所でかかりつけ歯科医を持つ者の割合	障害福祉サービス等事業所利用者	障害者歯科保健センターアンケート (毎年)	66.3% (R1)	63.2% (R4)	増加	70.2%

③取組・検証の結果、新たに設定したもの(3指標)

障害者歯科保健センターの患者数の増加により、予約(初診、再診、全身麻酔下歯科治療)が取りづらいという課題が見えたため、新たに指標を設定します。

指標名	調査対象	調査名 (調査頻度)	ベースライン値 (年度)	最終目標値 (R7)
障害者歯科保健センターの初診予約平均待ち日数	障がい児・者	障害者歯科保健センター調査	36日 (R4)	14日
障がい児・者の全身麻酔下歯科治療実施率※1	障がい児・者	障害者歯科保健センター調査	17.3% (R4)	50.8%
障がい児・者の全身麻酔下歯科治療標準期間内実施率※2	障がい児・者	障害者歯科保健センター調査	3.3% (R4)	15.4%

※1:センター歯科医師により全身麻酔下歯科治療が必要だと判断された患者(要治療者)のうち、治療を実施することができた患者の割合

※2:標準的な期間を「90日」と設定し、要治療者のうち、標準的な期間内で全身麻酔下歯科治療を実施することができた患者の割合

(2)行政の取組の再設定

①取組・検証の結果、新たに追加する行政の取組(3事業)

事業名	事業の概要	担当
1歳頃のむし歯 予防事業	歯と口に関する正しい知識を普及し、乳歯のむし歯予防の行動変容を促すこと等を目的に8か月～1歳2か月頃の親子を対象に歯科衛生士による教室を実施します。また、動画(オンデマンド型)を用いた情報発信を行います。	健康づくり推進課
学童期・思春期の 歯科口腔保健支援 事業	小中高校生の歯科口腔保健の推進を図るために児童や生徒、その保護者に情報提供を行うほか、関連する職種を対象とした研修会を行います。	健康づくり推進課
歯科健診受診勧奨	特定健康診査の問診票で「噛めない」と回答しているものの、歯科医院を受診されていない者に対し、歯科健診の受診勧奨を行います。	健康づくり推進課

②取組・検証の結果から一部見直しを図る行政の取組(4事業)

事業名	事業の概要	担当
子どもの歯と口の 健康づくり研修会	こども園等の保育教諭等を対象に、むし歯予防や食べる機能についてなど、歯科保健の正しい知識を普及することを目的にオンデマンド配信等による情報発信を行います。	健康づくり推進課
歯周病検診 ※トリプル健診 (集団)含む	健康増進法に基づき実施する歯科健診です。国では、40、50、60、70歳の節目年齢での実施を推奨していますが、本市では40歳以上の職場で健診機会のない者と対象を広げています。初年度にあたる40歳全員と特定健康診査、市の大腸がん検診の両方を受診した希望者には無料受診券を送付します。また、医師会等が実施するサンデーレディース健診の場で集団歯周病検診(トリプル健診)を実施します。今後、國の方針に合わせ、20歳、30歳に対象を拡大予定です。	健康づくり推進課
歯と口の健康に関する普及啓発事業	6月4日～10日の歯と口の健康週間や11月8日のいい歯の日に合わせ啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行います。	健康づくり推進課
オンデマンド型 マタニティ教室 (歯科)	妊婦と生まれてくる子どもの歯の健康の保持増進を図ることを目的に情報のオンデマンド配信を行います。	健康づくり推進課